

市民参加ワークショップ
「WE LOVE KYOTO ～暮らし×SDGsで未来の京都を想像しよう！～」

目指そう，人にも動物にも優しいまち京都！

～動物愛護センターの活動を知っていますか？～



サマリーレポート



ワークショップテーマ：

目指そう、人にも動物にも優しいまち京都！

～動物愛護センターの活動を知っていますか？～



ワークショップのルール

1. 一人ひとりの「**想い**」を大切にする
2. お互いの**違い**や**多様性**を尊重し、
アイデアを生み出す源泉とする
3. 参加者全員で発言機会を提供しあい、
よい**関係性**をつくりあげる
4. いつもの主張をただ話すのではなく、
その場で感じたことを大切にする
5. リラックスして**ワークショップを楽しむ**。

◆ 開催方法：オンラインWEB会議システム「Zoom」

◆ 参加者：8名

内訳：一般参加（市民）：2名

京都市職員（市民協働ファシリテーター研修受講生）：6名

開催背景

- ◆ 京都動物愛護センターは、全国初の政令市と都道府県（京都市と京都府）が共同で設置・運営する動物愛護・管理施設として、平成27年度に開設した。
- ◆ センターでは、保護した犬猫の飼養管理・譲渡、関係団体やボランティアスタッフの協力による動物愛護の啓発事業など、本市の動物愛護行政の拠点として活動を行っているが、令和元年度の「市政総合アンケート」によればセンターの認知度はわずか約30%
- ◆ 広く市民に動物愛護精神を浸透させるには、センターの認知度のさらなる向上が不可欠

本ワークショップにおける問いとゴール

問い

動物愛護の取組を広げるために、どのようにすればより多くの人に情報を届けられるか。

ゴール

理想の未来の実現の第一歩が動物愛護精神の広がりであることを共通認識とし、そのための有効な情報発信の具体策を提案する。



1. 問いの共有

- ◆ テーマ所管課から想いの共有
- ◆ ファシリテーターから、ワークショップの問いとゴール・進め方・ルールの説明



2. ストーリーテリング

- ◆ 「レクチャーを受けて現在の広報活動のいいと思ったところ，こうしたらよりよくなると思うこと」というテーマで，小グループで対話

3. 全体での対話（フィッシュボウル）

- ◆ 「“ なったら良いな，こんな未来”10年後に実現してほしい，人にもペットにも優しい社会。あなたはどんな社会になってほしいと思いますか？」というテーマで，全体で対話

4. チームづくり（マグネットテーブル）

- ◆ 「ありたい未来を実現するためのアイデア」というテーマについて，各自が自分の考え・アイデアをチャットに書き込み。その内容を参加者同士で共有しながら，一緒に検討するチームを形成

5. アウトプット作成（クイックプロトタイピング）

- ◆ 10年後，あなたの活躍で先ほど描いた理想の社会が実現し，ラジオニュースで特集されたと想定。「あなたがどんな活動をしてどのように活動を広めたのか」について，即興のラジオニュース番組として，チームごとに作成

6. 発表

- ◆ ラジオニュース（各チームのアウトプット）を演じながら発表

レクチャーを受けて、良いと思ったところ

- ◆ SNSでの積極的な発信やLINEスタンプの活用
- ◆ ドッグランが併設されており、気軽に利用できること
- ◆ 小学校への出前授業で子どもたちにも積極的にアプローチしていること



より良くするためには

- ◆ 可愛い動物が人の目に留まるような発信をし、そこを入口にセンターの存在を知ってもらう。
- ◆ 積極的に情報にアクセスしなくても自然と目に入るような場所での広報も取り入れたい。
- ◆ 犬・猫を飼う際に保護犬・猫を選択肢に入れてもらうためには、親向けに対してもセンター及び保護犬・猫の存在をより周知する。

具体例

- ◆ 「可愛い」「癒し」等に関連する言葉にするなど、SNSのハッシュタグの付け方を工夫する。
- ◆ 可愛い動物の写真を使ったポスターを街中に貼る。
- ◆ 出前授業のことを家で親に話して感想を書いてもらう宿題を出し、子どもの親へアプローチする。





「なったら良いな，こんな未来」

10年後に実現してほしい，人にも動物にも優しい社会

動物が生きやすい社会

- ◆ そもそも動物を飼う行為は人間のエゴではないか。動物が自立できる社会が理想
- ◆ ペットを飼う以上は人間都合ではなく**動物が快適に最期まで暮らせる**ようにする**責任**を皆が持っている社会
- ◆ 真夏の散歩で犬が足をやけどしないよう，道路の**アスファルト舗装をやめて緑化**すれば，人にも犬にも地球にも優しい街になる。
- ◆ 動物を飼っているとなかなか旅行に行けないので，ペットホテルや犬・猫同伴OKな宿泊施設が増えてほしい。
- ◆ 血統にこだわらず，**保護犬・猫の個性をオンリーワン**のものとして大切にできる社会になってほしい。

ペットを育てるためのコミュニティ

- ◆ ペットを飼うという重い責任を，一人で抱え込まずに**地域の人**4～5人でゆるやかに**シェアリング**できるコミュニティの形成
- ◆ 動物園の動物のお世話を市民が交代で担当する機会を設ける。
- ◆ ペットを飼う人に対して，周囲のサポート体制が充実している社会
- ◆ ウサギなど犬・猫以外の動物も，**ペットショップで購入するのではなく保護団体からの譲渡が当たり前**となる社会になってほしい。
- ◆ バーチャル技術を活用した人と動物・動物と動物の触れ合いができる社会
- ◆ 動物の飼い方のポイントをまとめた**育児書のような本やサイト**がほしい。

アウトプットサマリー：ありたい未来の実現に向けたアイデア

ありたい**未来**を実現するアイデア



共通する想いや考え方をまとめ、2つのグループに分ける



種別別・ペットコミュニティをつくる

動物が自立して生きることのできる環境をつくる

地域で動物を育てるコミュニティ・環境づくり

町内で希望者を募り当番制で、各家・場所でペットを育てる仕組みを主流に

動物を育てるための情報を共有できる場をつくる

動物を飼育するためのサポート体制の充実と発信（旅行時の一時預かり、病気の時などの総合相談窓口など）

誰もがゆるやかに動物と暮らせる社会にするため、動物の共同飼育、地域でのシェアリング

理由があって手放さなければいけなくなった際のその後の環境づくり

■ タイトルコール

動物の保育園～人と人 人と動物 動物と動物を繋げる～

■ 特集された活動内容

ペットを預けあう、育てあう コミュニティ全体で動物を育てることで
ペットだけでなく人のつながりも紡ぐ

■ 活動の輪を広げるために「広報」で工夫したポイント

- 1 地域の一員（動物）が増えたら回覧板でお知らせ→みんなで保育していこうと呼びかけ
- 2 ふれあいの少ないワンルームマンションに積極的にアプローチ（空き家の解消、若年層の方も）
- 3 里親さんのような小さなところもあれば、大きな保育園も！！

ラジオニュース

あなただけ活躍で10年後、理想の社会が実現しました。
ラジオニュースと「あなたとみんなが動物を育てる」の活動がきっかけで、
ニュース作成より「動物と人」のつながりが広がりました。

◆タイトルコール

動物の保育園～人と人 人と動物 動物と動物を繋げる。

◆特集された活動内容

ペットを預け合い、育て合いをすることで、人と動物の繋がりができる

◆活動の輪を広げるために「広報」で工夫したポイント3つ

動物回覧板-保育園に行きコミュニケーション

- 1 「地域で動物（子ども）を育てる。動物（子ども）は地域の宝。」
- 2 ワンルームマンションにチラシを置く（空き家の解消、若年層の方も一緒に）
- 3 里親さんのような小さなところもあれば、大きな保育園も！！

◆活動の実践までが一番苦労したポイント など
運営スタッフ集めに苦労しました！
スタッフと地域の人のつながりも出来た！！



■ タイトルコール

集まれ〇〇を飼ってる人

■ 特集された活動内容

同じ動物を飼っている人同士の助け合いの輪が広がっている

飼育の情報交換や相談ができるほか、新しく飼う人の不安解消にも効果

■ 活動の輪を広げるために「広報」で工夫したポイント

- 1 飼い主が社会とかかわる機会に接点を生む（動物病院、ペットショップ等）
- 2 拡散性の高いツールも活用（SNS、ハッシュタグでバズらせる）
- 3 サークルの活用

ラジオニュース

あなたの活躍で10万部、想定の社会が実現しました。
ラジオニュースで「あなたとどんな活動をしてどのように活動を広げたのか」が特集されました。
ニュース作成2月分、掲載3月、遠征チームの企画がはじまり出発してください。

◆タイトルコール

集まれ〇〇を飼ってる人

◆特集された活動内容

同じ動物を飼っている人同士の助け合いの輪が広がっている

◆活動の輪を広げるために「広報」で工夫したポイント3つ

1 動物病院、ペットショップ等への広報

2 SNSでのイベント（ハッシュタグでバズらせる）

3 いかにか人の輪を広げるか

◆活動の実践までに一番苦労したポイント など



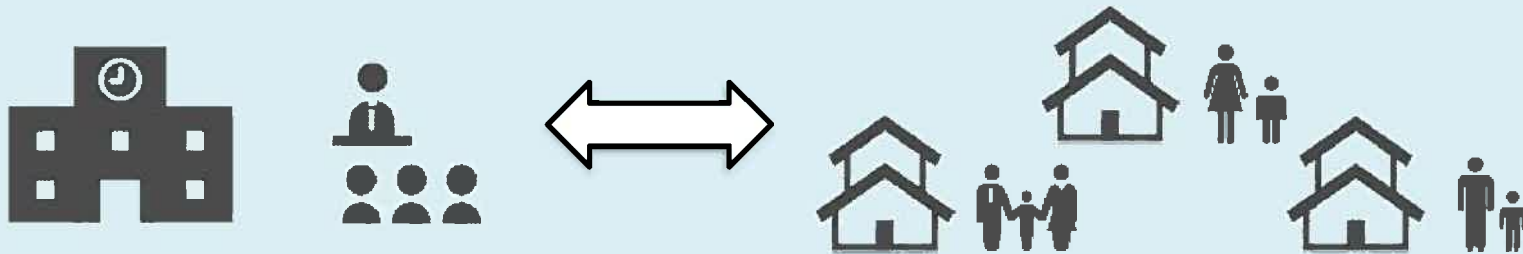
ワークショップ参加者に共通する思いや願い

地域、同じペットを飼う人同士等のコミュニティ、助け合える体制づくりが大切

例えば…（ワークショップ内で出た意見より）



学校・保育園等での教育活動を行い、保護者と話し合う宿題を出す
→学校というコミュニティから、**保護者層へ情報が拡散**



同じ地域・集合住宅内で同種のペットを飼う人たちのコミュニティ作り
→**助け合いの輪**が広がるとともに、**地域、ペットの種類にあった広報活動**が可能に



広報への活用

コミュニティ作りに積極的に関わり、地域・コミュニティでの助け合いの輪を広げる
既存の地域や新規のコミュニティなどを積極的に活用し、効率的な広報活動を展開する

